

高速インターネット基盤未整備地域住民の 生活環境と意識 (2)

— 東海地域を事例に —

米田 公 則

1. はじめに
2. 住民調査の概要
3. 調査対象地域の概況
4. 対象地区の現状と課題

(以上、第8巻に収録)

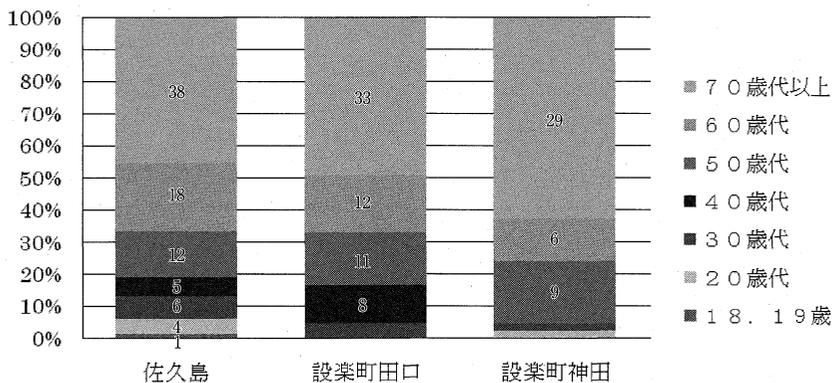
5. アンケート調査に基づく 調査対象3地区の比較

(1) 地区の特性に基づく相違

すでに前回で設楽町、一色町佐久島の概況について説明をした。今回対象とした設楽町田口地区、神田地区、一色町佐久島地区は、前回にも少し触れたが基本的特性として共通の部分と若干異なる部分がある。

調査対象地の神田地区と一色町佐久島とはいずれも、基本的にブロードバンド環境が未整備である。それに対して、田口地区は、一部は未整備であるが、ADSL環境が整備されている。また、田口地区は、設楽町の中心部に位置しているのに対して、神田地区は周辺部に位置し、厳しい環境におかれている設楽町の中でも特に多くの問題を抱えている。

下の図表5-1は、3地区の年代別の回答者数、比率を示したものであるが、設楽町田口地区と一



図表 5-1 年代別回答比率

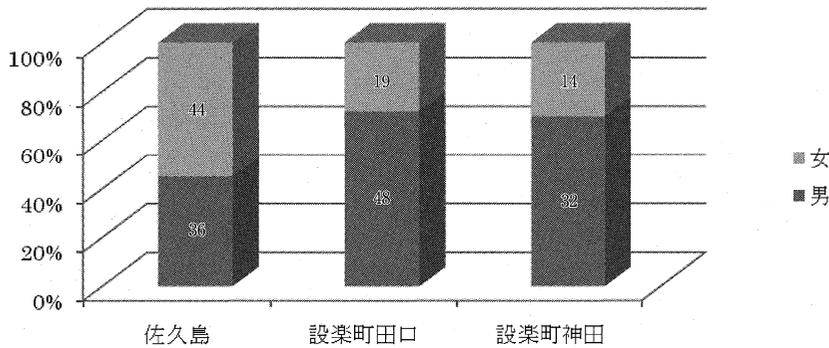
色町佐久島は、70歳以上の回答者が、50%前後なのに対して、神田地区では70歳以上が6割を超えている。ここからも神田地区がもっとも深刻な高齢化が進行していることがわかる。

また、次の図表5-2は、回答者の男女別比率を示したものである。この調査は全世帯の成人全員を対象に、アンケート調査票を配布し、成人が複数いる場合には、回答が複数来るという全数調査であった。それを考えると、男女比はほぼ同等あるいは高齢化を考えると女性の方が多いことが想定された。しかし実際の回答をみると設楽町では圧倒的に男性の比率が高い。この理由はいろいろなことが考えられよう。一つには、設楽町では今回の調査に対して世帯を代表して男性が回答して

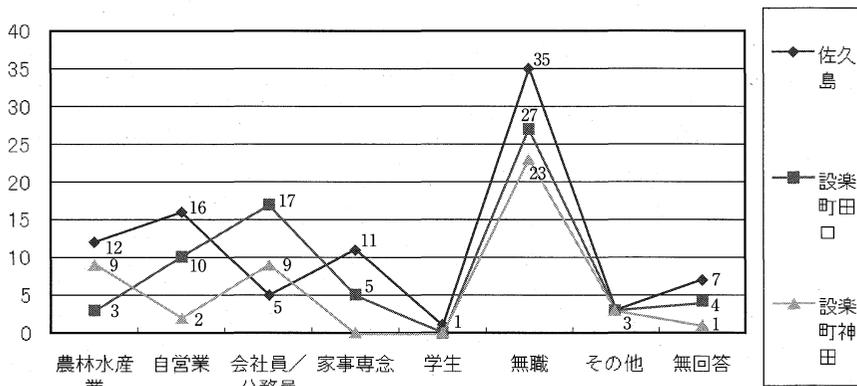
いることが考えられる。これに対して、佐久島では女性も積極的に発言をするという気風があるのかもしれない。

このことは、インタビュー調査でも同様の傾向が伺えた。設楽町では、男性の地区役員を中心にインタビューに応じてくれた。これに対して、佐久島では島の役員以外に女性も多く出席し、積極的に発言をしていた。これらのことから、山村と漁村の気質の違いというものも影響していることが考えられる。

次の図表5-3は、職業別の回答数であるが、3地区いずれも無職がもっとも多くなっている。それ以外で注目されるのは、設楽町田口地区が会社員・公務員の回答が多かったのに対し、設楽町神



図表 5-2 男女別比率



図表 5-3 職業別回答人数

田地区では、会社員・公務員と同数の農林業従事者がいる。やはり田口地区は設楽町の中心部であるのに対して、神田地区は周辺に位置していることが影響していることが考えられる。これに対して佐久島では、自営業、次いで農林水産業（主に水産業と考えられる）が多かった。

このほか注目されるのは、佐久島では家事専念と回答したものも多く、女性が積極的に発言していることが伺える。

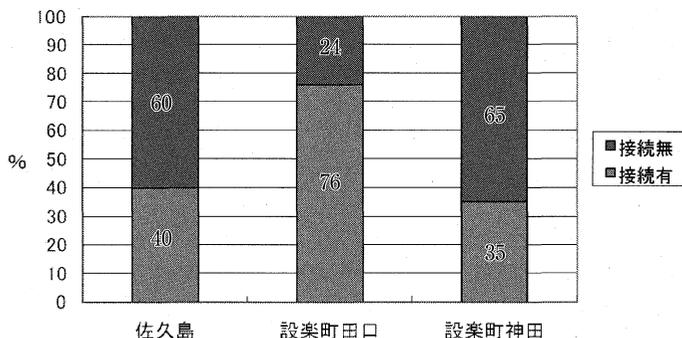
(2) ブロードバンド環境整備の有無の影響

次にブロードバンド環境整備状況の違いに基づく、意識や状態の違いについてみていく。インターネット接続世帯数をみると、ブロードバンド環境が整備されている設楽町田口地区では、76%の世帯が接続をしているのに対して、環境が未整備な設楽町神田地区、一色町佐久島では、それぞ

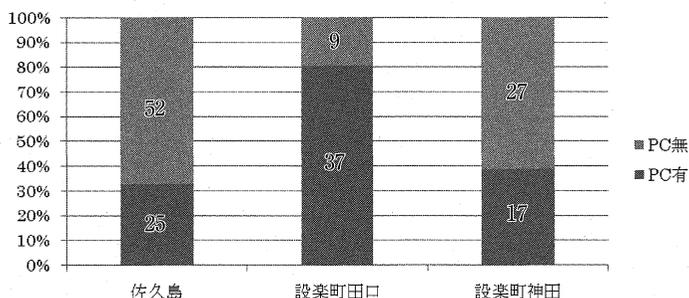
れ35%、40%にとどまっている。ブロードバンド環境が未整備な状況でのこの数字をどのように解釈するかは難しいところであるが、困難な状況下でもある程度インターネットを活用しようという志向があるものと考えられる。

インターネット接続世帯数の差異は、パーソナルコンピュータの保有状況にも影響を与えている。インターネットの接続世帯数の差異とパーソナルコンピュータの保有状況との差異が見事に相関する関係になっている。もちろん、実際のインタビューでは、パソコンはもっているけれども「年賀状を印刷する程度」との回答もあり、積極的に活用しているかどうかは疑問のあるところである。（図表5-5参照）

しかし、ブロードバンド環境の整備されている地区と、インターネットを接続する世帯数の多さ、パーソナルコンピュータ保有の多さとの相関関係



図表 5-4 インターネット接続世帯数



図表 5-5 PC保有状況

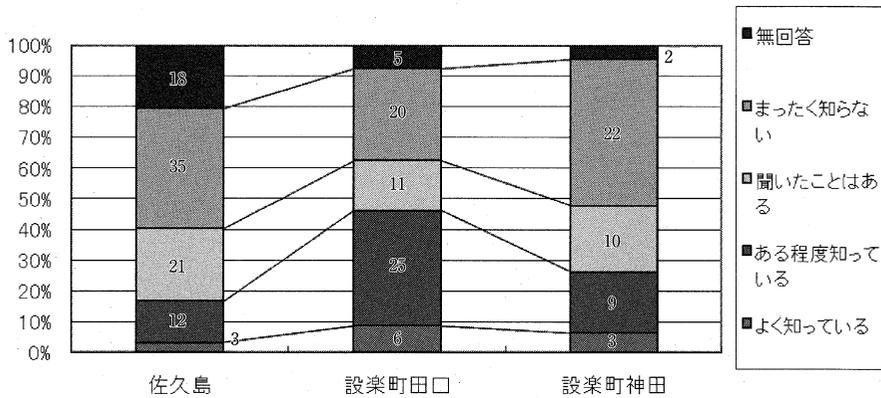
をみると、ブロードバンド環境が未整備な状況におかれている地区では、インターネットへの接続意欲、パーソナルコンピュータの所有意欲が阻害されているものと考えられる。

(3) ブロードバンドへの認知度と環境未整備への不満度

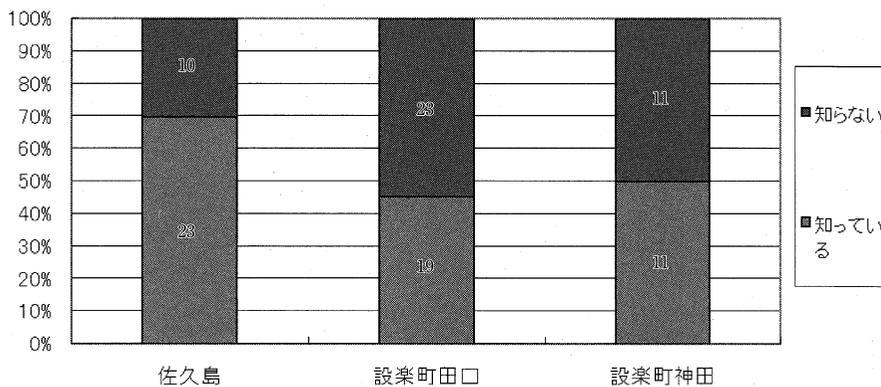
それでは、ブロードバンドに対する認知度はどの程度であろうか。図表5-6をみると、ブロードバンドに対する認知度が最も高いのはやはりすでにブロードバンド環境が整備されている設楽町田口地区であり、もっとも認知度が低いのが佐久島で、神田地区はその中間である。この結果はある

意味当然であろう。すでにブロードバンド環境が整備されて田口地区は当然として、神田地区は同じ町内にすでにブロードバンドが整備されていることを考えれば、必然的にブロードバンドに関する情報やそれに触れる機会が多いことが考えられる。これに対して、佐久島は島であり、そのような情報のふれる機会は、島外に出る以外にない。このようなことを考えると、妥当な結果といえよう。

図表5-7は、ブロードバンドが利用できない地域があることへの認知度であるが、すでに利用できる設楽町田口地区で5割以上の人がある状況を認知していない。これに対して自らの地区が利用



図表 5-6 ブロードバンドへの認知度



図表 5-7 町内にブロードバンドが利用できない地域があることへの認知度

できない設楽町神田地区住民で、知らないと回答したものが5割いるということは、そもそもブロードバンドに対する関心そのものがあまりないということの意味しているのかもしれない。

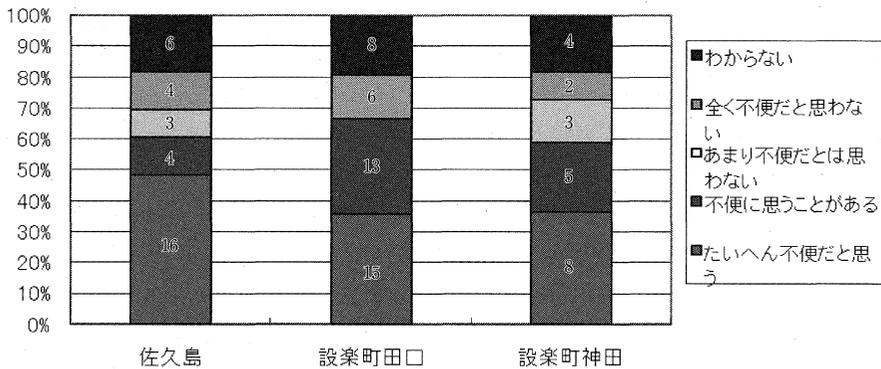
これに対して、佐久島では70%の人が利用できない地域であることを認知していた。このことはそれだけブロードバンドに対して関心が高いということの意味していると思われる。

図表5-8は、このような状況を不便と思うかという質問であるが、佐久島では、5割近い人が「大変不便だと思う」と回答し、設楽町の2地区の3割台より高い結果を示している。これは、佐久島

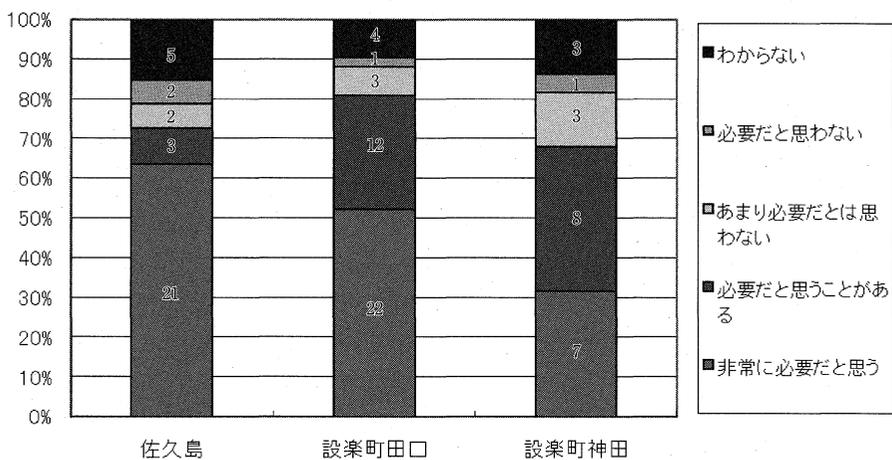
の住民がそれだけ不便さを感じていることを意味する。

このことは、次の図表5-9にも現れている。図表5-9は、ブロードバンド環境整備が必要であると思うかという設問であるが、佐久島では6割以上のものがブロードバンド環境の整備が是非とも必要と考えている。

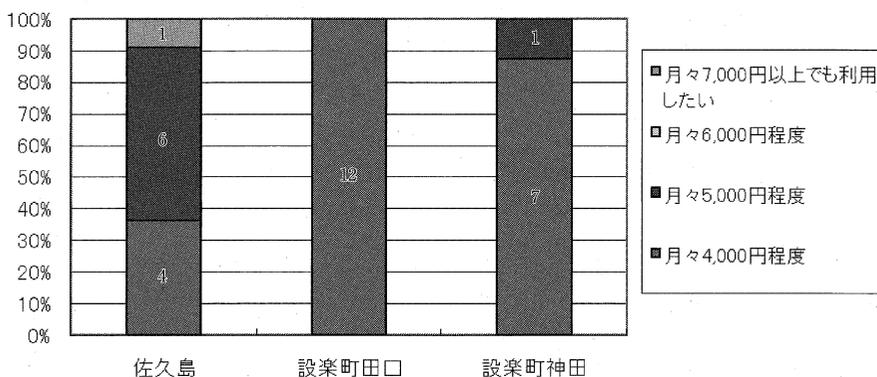
図表5-10をみてもその期待度が大きいことがわかる。この図表は利用したいと思う料金をしめしてもらったものであるが、設楽町田口地区、設楽町神田地区では、4000円程度がほとんどであるのに対して、佐久島では、最も多いのが5000円程



図表5-8 インターネット利用できないことが不便と思うか



図表5-9 ブロードバンドの環境整備が必要と思うか



図表 5-10 利用したいと思う料金

度、中には6000円でも利用したいという意見がある。ここでもある程度負担をしてもブロードバンドを利用したいという意向が強いことがわかる。

このように佐久島が設楽町に対して、不便さを感じ、環境整備をぜひとも必要と感じる理由はどこにあるのだろうか。この理由をあきらかにすることは容易ではない。しかし、今回の調査でいくつかの可能性が考えられる。その一つは、佐久島のおかれている状況、特に同じく三河湾に浮かぶ他の二島、篠島、日間賀島との格差の拡大である。佐久島は戦後まもなくの町村合併で幡豆郡一色町と合併したのに対して、篠島、日間賀島は、南知多町と合併した。このため、二島は知多との関係が深まり、交通の便なども知多半島が中心となった。知多半島は名鉄が観光開発の拠点の一つとしてきた場所であり、篠島、日間賀島もその波に乗り、民宿などが多く営まれている。実際、人口の減少も、三島のなかで、佐久島がもっとも急激である。

これは、ブロードバンド環境にも違いを生じさせている。篠島、日間賀島はすでに環境が整備され、民宿の予約などに活用されている。これを横目に見ている佐久島の島民にとってこの差は大きいものと意識されていると考えられる。

また、これに加え、昨今佐久島は観光開発、地

域おこしに積極的に取り組んでいる。島内では地域おこしに取り組むグループがあり、様々な活動を行っている。また一色町なども佐久島の観光開発に積極的に乗り出し「癒しとアートの島」をキャッチフレーズに様々なイベントなどを行っている。

このような活動を進めるなかで、地域からの情報発信ならびに島外の人々とのコミュニケーションが大切であることが多くの住民に認識されてきたということが考えられる。地域おこしに積極であればあるほど、地域外とのコミュニケーションが重要であり、そのためには環境整備が急務なのである。

(4) インターネット利用への関心とその内容

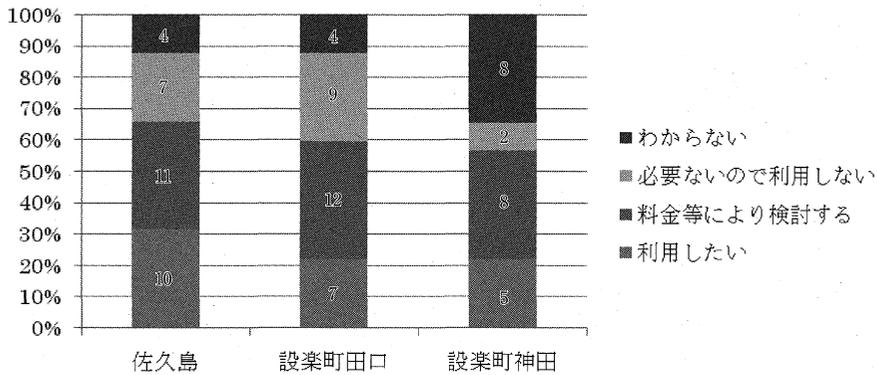
それではインターネット利用への関心ならびにどのような利用内容を考えているのかについて注目する。図表 5-11 は、インターネットを利用したいかという設問に対する回答であるが、明確に利用したいとの回答の比率は佐久島が最も高い。それに対して、設楽町田口地区の住民では、「必要ないので利用しない」と回答している比率が他の二地区より高く、利用に消極的であることがわかる。設楽町神田地区は、「わからない」という回答が他の二地区により高く、インターネットそのも

のへの認知度、期待度が低いことが伺える。

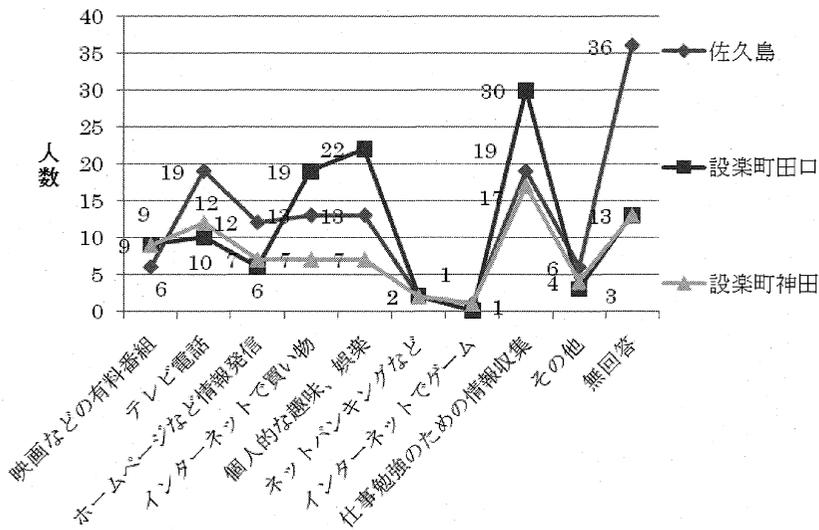
次の図表5-12は、インターネットで利用したいサービスについての回答であるが、ここで注目されるのは、ブロードバンドに対する期待が最も高かった佐久島で、無回答が最も多かった点である。これは、ブロードバンドに対する期待は高いが、実際のところどのような利用が可能なのか、明確な展望がないことが伺える。つまり、利用したいが、どのように利用することができるのかわかっていないものが多いと考えられる。

また、佐久島地区で高い回答の一つに、テレビ電話があげられているが、テレビ電話の利用は一般的にはあまり多くなく、またこれの利用にはカメラ付きのパソコンが必要である。これらのことを考えると、テレビ電話の利用はあまり現実的ではないといえることができるが、それを選択したということは、実際の利用方法についての認識が低いことが伺える。

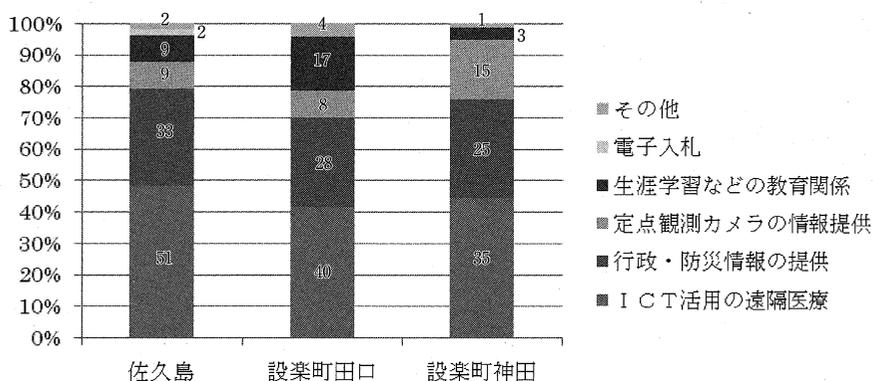
これに対して、設楽町田口地区の回答は、仕事勉強のための情報収集やインターネットでの買い



図表 5-11 インターネットを利用したいか



図表 5-12 インターネットを利用したいサービス



図表 5-13 インターネットで利用したい行政サービス

物、個人的な趣味や娯楽、など、現在多く使用されている目的をあげており、ここからも田口地区の住民がインターネットでどのようなことができるかということをよくわかっていると思われる。

次の図表 5-13 は、インターネットで利用したい行政サービスを選択させたものであるが、最も多く選択されたのは、どの地区においても「ICT 活用の遠隔医療」であった。これは佐久島、設楽町の置かれている状況を反映しているといえる。その第一は、すでに述べたがこれらの地区が高齢化が急速に進んでいるということによる。高齢者の最大の関心は医療である。

この背景には、これらの地区が交通の便がきわめて悪いということがある。設楽町は三河山間部でもっとも交通の便が悪い地区となっているし、佐久島は交通の手段は船に頼っている。そのため、気軽に医療を受けるということは大変困難なことである。これに加え、近年の医療環境の悪化という問題がある。佐久島では診療所があるが、常駐の医者はおらず、週に数日しか診察を受けられない。他方で、設楽町は、これまで三河山間部の医療を支えていた新城市の病院が経営難の問題を抱え、その影響が設楽町住民にも出ている。

このように、いずれの地域においても医療の問

題は深刻であり、これが ICT の利活用で改善されることへの期待はきわめて大きいことがわかる。

次に多い防災情報も地域の状況を反映している。佐久島は台風などの影響を受けることが多く、また火災に対する対策も不十分な面であり、地域住民にとって防災に対する関心は高い。設楽町も、地震などの災害があった場合には「陸の孤島になる」という声が地域住民からあった。神田地区の役員の間では、そのための防災ヘリの発着場をどうするかということを経験にしていた。

(5) 3地区の特徴——比較から見えてくるもの

以上三地区を比較しながらその特徴をみてきた。もっともブロードバンド環境、インターネット利用に対してもっとも意欲的であったのは、佐久島であった。佐久島では積極的にまちおこしの取り組みがなされ、現状を打開しようという意欲ももっとも高かった。そのことがブロードバンド、インターネットへの期待となっているものと考えられる。

しかし、皮肉なことに、この地区がもっとも具体的な利用法などへの理解が低い結果となっている。この点は今後整備を進める中で、どのように利用可能なのかを十分理解・検討する必要がある。

う。

さらに忘れてならない点は、今回の未整備地区のおかれている環境の厳しさである。基盤となる産業の不振、地域の安全・安心を支える医療体制の弱体化、そして交通手段、災害に対する不安。これらの不安を解消するために、インターネットが活用できないかと考え、ブロードバンド環境の整備を求める声があることを忘れてはならない。

(続く)

こめた・きみのり / 文化情報学部教授
E-mail : komeda@sugiyama-u.ac.jp